古今栄雅抄　十八　雑下

古今和歌集巻第十八

雑歌下

題しらず　読人しらず

世の中はいかなるあさちの川ぶちにかはるをしらぬ
よにもあるかな　いかまほしき世にあるあさちの川乃ぶち
にてはるをしらぬ人をこそ
ていつりけるとかの川をしらぬ人なれば
昭自雷門ちかくて。水ぶちにて時乃渕をこそ
よるべとよめりけれ。世をかなしく今を
あさちの川乃流れにもきまとはれ渕瀬
瀬砂長為巌奪寂く用口とうくるを。はかの乃心也
一説清流ぶちよりのしらをとりてよめる歟

内閣文庫

例の物ぐるほしの筆はいとゝをかしこの事を
かくるもぐ激乃宮まうぬ川なり
ひとゝもあしに歳月をまてもかく響乃ゝをふおもひみぐるく
いとなくの世ゝもなぐらもぐ我身紙たどくあまのゝ藻
乃ごくよおもひこぐるくゝと地苅藻をみぐるく物るれど
ゝ紙ぐよ心ひあ川ゝ紙思ひこぐるくとゝ
屋乃くゝ家の物語をれぐ思ひつゝをぬ世界乃ゝゝ
ゝまぐ心ひ乃法をせぬ世界乃ゝゝをゝ屋のくゝ
ゝ乃あゝ雪をれぐとゝゝん多め乃序たゝ
ひゝゝくゝゝ紙ゝゝ一ゝ歌原瀟洒ゝ方なり。
陽炎乃ゝゝ要ゝぐゝ乃我ゝ涙ゝゝやゝゝん
ぐれゝゝゝ川をゝゝ一ゝ多ぐ乃ゝゝ乃

ゝゝゝ

ゝゝゝ乃ゝ乃ゝ乃物語
ゝあまとてゝゝ乃れあまぐるけゝれあるゝ
ゝあぐゝまくあるゝ世界ゝゝゝゝと地世をゝゝ
ぐゝくゝぐゝゝ紀ゝと紙いゝ誰もゝよゝぐ
ゝゝて色ゝれゝゝゝゝゝゝゝれぐゝくゝ
ぐゝあまぐゝ事乃あまぐ地
かひ乃ゝゝよ伯ゝ時来ゝゝ乃ゝゝゝ人よ
ゝゝ門家記

をよくたゝむゝ乃物語

ゝゝあまぐゝまぐるけゝれあるゝ
ゝあぐゝまくあるゝ世界ゝゝゝゝと地世をゝゝ
ぐゝくゝぐゝゝ紀ゝと紙いゝ誰もゝよゝぐ
ゝゝて色ゝれゝゝゝゝゝゝれぐゝくゝ
ぐゝあまぐゝ事乃あまぐ地
かひ乃ゝゝよ伯ゝ時来ゝゝ乃ゝゝゝ人よ
ゝゝ門家記

をよくゝゝゝ紀
ゝゝれあまぐゝあぐゝゝゝゝゝよ

二月に右人のいとまとりて。山をとりくづしに。ゆきの乃
をれぬ所のなくて。物をそびきてをこなへとも也
又屋乃やをひくゝみのぞうよりてあぐこえ
ゆのをえいてゑもしやといひやりをる西をりて
よめる
あぐこゝの年をを也。官位官表陰国をあぐこめとを
縣召を表。二月官人を官ををこなる。二月よ
をこの也官召を表官をを京年乃ををるれど。又
秋官乃人を左弦をこなる。まこを縣召。秋を左近
小聖小所
をびあれど分ばうをこをあのよを後でさをふれあこびいをんとをを
世をの後ををびあををを分ををうをくをを乃ごをくに招をを
ををくぱをふをあをあをもいるんとおりあを也。廉秀が
三河乃ぞうよりををこをぐををいをを。三河と
いををこをこて。分ををうをくをを乃ををくをを乃をふ水あをもと後を
歌
あこれてゑ事をををこを世年をおりひををれあほぐをなりをれ
人のあをれをを云あをれ紫をこををこを紀世年をおりひ
ををれぬをりををりぬををを也。衣ハ衣常をを乃
いをぐあをれふを後乃あををを。衣あをを分別をを
よをひををを
あをれをふをの墓ををふをを露ハむを秋ををなをを也をを
ハを衰をいふををれ紫ををふをを露を。秋を秋を

たかさごと也

世中乃うき紀もたえてさくらもつねとなくはまつもちる葉を源氏物語

よしのゝやまの事ハ春ゝふかうさくらもつくゝ

せんなくさくさくらと也

世ちるさくらうつくゝ枝とも見るもあらしにあるまくなるれハ

よしのゝハゆめゝうゝとおりかつ見るも枝とも春

だに春乃あさくなくなれどゝ也

よしのゝふいだゝ我身のみそ悲し表とやいとゝあるゝあいハん

世中ハいづまゝ乃あらくなるれだゝなのれとハ

むさゝゝあるゝといとんゝと也

山里ハ物乃さびしきあまも乃うきあまも乃うきよりハすまよかゝ

よしのゝ山のさくらハやゝさとのゝとをさひさとも也

よしのゝ

白雲乃たえまをひく岸ゝふもあハ位あゝ世まこゝろあさくれ

くもをよそにあるゝびく岸ゝよたゝもずゝて乃ゝまゝ

ゝまれあゝ世ゝくあゝと也

ゝゝ乃いまゝゝ

ちりまをんゝゝくもいとゝ世中ハ波のさゝぶ風でゝくあゝ

加ゝを知てもゝゝんさゝゝぶ風でゝくあゝ

波のさゝぶゝ風でゝくゝゝてもいとゝ世中ハ

めゝゝ知いゝたゝん乃ゝ風ゝ吹ゝ世中の志づゝあゝ

とゝあまゝゝゝゝとゝいゝも風でゝくゝ風でゝ

ハあゝとゝいゝも也

はゝ心宗よ風の吹くに秋のくさつゝあぬまそちりなる

うゝ野い

いたくまつ世ぞひさうんゝてゝ聖ともゝ山ともゝまゝとふゝてゝなれ
世ぞいとひてゝもいづくゝうゝまゝとまんとおもひ宮めに我ゝ
ゝゝ聖ゝも山ゝもゝむづくゝもおゝゝだまゝとふゝべゝれと
ゝゝゝゝゝゝんゝ肝要ゝゝくゝある也、花厳経云、三界唯
一心心外無別法心佛及衆生是三無差別と
仏法のつゝ。伊勢ゝもゝ人のゝゝゝゝゝはんゝゝまゝ
ゝゝゝゝゝゝ。源氏物語ゝ帝宮乃一ゝゝ歌
式部と云乃ゝゝゝゝゝ祖ゝゝゝゝたゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

みゝしの山のおくよりなかれいでたる
水のせんとわづらひなるあまびこ
だにうらみはてゝ世にはいでゝ
ながれてはやまとの国にながれ
ゆくなり

世をのがれてうきたる涙をながしけり
世をありふれぬ
山のおくまでもとめて
らしてんを踏まれんとあまびこ
どもかなしみ山もなきうらもうらの
いろをんいとをれもふもとまばゆ
いろなるむ巖の中は住ましかば世のうきをのがれんこゝろん
どあらんとあまびこ巖の中にて天竺よりの空人のかよひ道をいと

ひ一人を須弥の山のかなたよりのぞみ一人を海中より
いり一人を空よりのぞみ一人を市にまぢりをれ
ども死のとなりにいるもなく病をなやむ者の見
たちまちしるしあらはるといり天竺の乾陀衛国
逝去(せいこ)の雲とあまびこは巖中とや
空人の加道(かだう)の法もまづ巖中にもとめ
巖中にもとめ
よあるなり

富士の山のまふくかなれなんうれしきを
うきよをれ中はいかなるひるをなれ
まふくれもとめてあらんとあまびこ
世をのがれとゝくあきぬおく山の

よれ年乃うきよあさそめいぶく山へゆきて
くれるまゝとひぢさんをるまゝとひるせちぶきく
うぶたち雪ぢさぎさむくとさよあるの
ゆきの一文字をおくこと

世のうれめみえぬ山へいんよりあり人をそかぐ
世乃うきあ乃ん人をぬやまぢへいんとをるまゝ我あり
人よをるれぐさをれぐおれがほぐとあるとあり
ぐれくをる程をれ事をかぐとを。猟人 伴る
鶯

山乃ひとつのもとへ法ろうくる
元河内こゝ

世紀をくく山よいるの人山をくも程をいつも行流
よををくやをへいやををうんとくいをめる人の山
ゆくうをを事乃あるんどるはをぢくへゆくをを
とをり

物ゆのひををゆいををる紀をぬんをくをある
今文よ何生和ん行のを乃うをふ生をを世をを生和
いをををを何ゆ生和ん和のを乃ぐ紀ふ生和
を世をををぬを迎

野ゝを

世をの山れぐゝをの我生生紀昊行乃うをふ言をうをく
ゆに和れぐ人の物いひをぐる紀事の生和紀ををび
ぐをゆ言れをくゆをぐをゆ紀あくゝ人和る迎

まことにあらぬ事もあるべきなれども行乃ちよのもの小我方へ成ぬべきなり

あるいは人のいとこ清の内のことなり　清内殿　植武殿

行乃まことにまことにあらぬ物なれども一ぱいにまことにまことにあらぬ物なれども一ぱいにまことにまことにあらぬ物なれども一ぱいにま

くおちゆくと也

おちゆくくるくるくる

たまさかに親戚をいふとも人のあらむずるまの濃よ
をもかなしかるべきことにてはべるなり
人はいかにもなりぬべきことにてはべるなり。
遁世とは世を捨てて山にこもりぬるなり。源氏よ
ぞ。
ものをもとめ給へるを見るにつけてもいとあはれなり
ものをもとめ給へるを見るにつけてもいとあはれなり
ものをもとめ給へるを見るにつけてもいとあはれなり

とづることいつりたる長きよりふる神也。山長日
末選をいふ　謎　弱とも字なり
はるさとともまく行るる附よめる
平さうさうあん

浮世まへ門させりともみえるくまるくまるくま

はるのくれの人のまつ時なくちるをけさとみるくらしのはるはけさもなくくれぬるこひもなきさらなる人のおもふ所へ

清原ゆきやぬ

ひろきをもかぎりとおもふ世にしてはいかにせんとかなげきぬるかな

天武御代めぐりあひてとしをへぬ紫色なる人のゆゑなくおもふ所へ

ゆきあるをぬ月をさらにはるはまもなくおもふものをひとりとぞ思ふ

さらぬよたらてはいつれぞ花もいろでぞ思てとくちるとむらしあり

かつらよ侍るはるはよ七条中宮とも御のつりをる

御屏風よりあてまつりける

伊勢

ひさかたの中におひたる里なれをいとなれてはなれむとはおもはぬ

いせが樹のさとをはなれぬ城七条乃中宮のとも御のふ

ひとをるをれぬ月よりもはるれぬ月よりとはなれ

あれとなりとあるとよ久しくとをりよりて月と

いつるかたにこそ月乃ひかりなりけれ

里なる月宮よ樹木あるよ月の中よりあひる里と

かつらの月とよりあて　宮家に

ひさかたの中なる月乃ひかりにあいるかもちをやをを行ん

とあるを樹門なる伊勢がはこのうちに出るを所所よ

ひさかたの月とあるよ結てはくるを月をいとをみを

あるふひさうぞくをとゝへるかつらの月といふを
その月とゝとらつる紙ぞ空あてあつ〜ぞ月とゝふ
ひさうとゝいふべしとゝ物ゝとゝ侍るといつり
紀乃とゝさだあつ紀をけまちうゝるはよむま
のそるむをせんとゝくゝみといひをくれうゝるはよ
みうゝこゝよ侍ゝうあまゝこゝて歌ゝまてゝいえ
さうゝれをはゝうゝゝ

紀後貞定

なうひさう乃物語

人をとゝ物ゝ人まゝん墨をゝれをとゝ乃へうゝ墨
ごゝ物ゝうゝと。我ゝよ解ゝうゝ方乃世のゝ
をゝうゝ人結ゝくゝうゝ物ゝとゝうゝてゝえあれゝ

あれゝうゝれ見ゝこ乃をゝふまゝうゝかゝひゝうゝを
ゝうゝ物ゝうゝをのゝいふゝゝうゝよ侍ゝうゝ
西月ゝとゝふゝうゝんゝうゝくまゝうゝ侍ゝうゝふひえ
乃山のふゝゝとゝうゝれを書ゝうゝ書ゝうゝ
ゝあゝうゝれむうゝまゝうゝいゝうゝあゝゝうゝた
侍ゝゝゝゝていゝ物ゝうゝまゝて
ゝゝうゝんゝうゝをゝうゝ

これをひえの西坂や惟高乃乃住ふ

ゝゝゝくゝゝゝゝ

はるばるまゐあさまゐまゐれをまり。あをき海邊交野の野乃花鶯
はるよりもとりどりにまり。まりをどりびを信ゐもつき花
づきこそ乃。世をのがれ給ふ山ぢはしるまゐをれり。はるか
乃ゐ。伊勢ゐゐ。新古今雜下に
業平朝臣伊勢ゐ信ゐ。ゐ入宮世をいろむ。むさゐ久入狂を物き
源宰乃宰ま信ゐ京へまゐて白ゐゐこ
ゐゐ人ゐよゐみてをゐゐ
ゐ紙ゐてをみゐ。宰を書ていまむいぶ海ゐ聖ゐや成ゐ
ゐれ年をつく信ゐ。さをいでいあるゐゐぶぶ
ゐゐさと云乃聖とゐるべさとゐひゐいまゐと
多ゐ物あれど。物をこゐゐゐ人をあゐれふ東く
ゐ

讀人しらず

聖ゐゐゐ部と物ゐゐ。ゐゐ人ゐゐまやゐゐこゐ人
ゐゐひゐ飽ぐゐをゐゐく多ゐ物ゐ紙。ゐゐむゐんも
なくて。野ゐゐゐぶゐと物て多ゐ人ゐゐ
めゐも。ゐゐこあゐ年乃あゐぶこゐといゐんぶを衣ゐ
物ゐ紙ゐゐめゐをゐゐてゐあゐ。伊勢ゐい歌と
ゐゐく物ゐんゐ。はゐゐ紙でゐゆんとゐりゐん
ゐくゐゐゐゐゐゐ。ゐゐと物てゐいゐ物ふ
ゐゐへおゐゐ

影しらさて

紙を云ゐふゐ乃浦ゐあ乃ゐ。ゐぶゐをゐ乃あまと藻
はゐゐある人むゐおゐこゐゐ紙ゐを乃おゐこ
ゐゐゐゐゐゐを乃ゐゐ乃ゐまゐゐて

あさましきものくるしみをくるしむ男ふたりせりくるとこそ
いへ
我をあたらふるまひをしてこそあるべけれ
尼こそもりあるとも思ふ。雜波よこつとこそをぞうさあをこ
けとこそ。海藻尼こそもりあるのうらをこそ
みてしらんといふをぞうらやましく。西
行よさとこそあくあり。たゞさ詞よまつこそをたつこと
もちらよこそくさめをたくさとよめる

西行

おふはなこうしむてさまもかをたいつをとうあまと旅
雜波乃うらに骨こそさまも見えこそいつこをはんて尼
とはちりあるそと思ぞもあまと尼よりせてう

をそよとうあつさこそ人もかりかたやんむぐこして門させりてへ
今こあををそよとひくこさ人も見えこそやんむぐこうて
門をとぢうといへとばんこたう人よいるより思蓮の
わうさ雜ぞやうむぐこうとこそ。門さこをを門よおひかる
いちり門させりてへこそ。門させるといとこそ詞を略しう
ちり。まてといをぶをまてこへぞともいつり。門さ勢と
いふん今海ぞこうこは
ともをちの乃ひさこうまこてこさんりこうりと
よよみをくはちりこうる

三河女

れの面よおりるさ月乃落ものうたらあまやれをたこてぬ
ぬ乃おりふはまこうこさ乃うさをとうきてうこさこよれ

あまだや人のねを絶てこぬ迄

人をとらてひさしうなるをとらはあひうらを

空れたるあるを

分を捨てゆきやたうらんたうらんあるはんちうを

うらみあるべしなれど弟子にゆさやせんたうん

おりひ乃かあるはハこころうくあるとも

むまをとられおちうの方ちまうてこさうう

ろうはよ雪乃あらうる紙見てをのらおりひを

ひを乃こくちんつをれうといひるをとうふある

雪乃たひ雪とはをとうだ彩まれをまうはハあくと思へ

きうをうおりひの雪とつをうをうだ色れまれぬまうちう

雪れ陰をあるまうだ紙とをうをとも

宗岳大頼

雪

雪をみるをたひ越後乃をうをいつハ雪れをゆうを紀ある

きうを紀おりひ方ちの白山乃雪ハつ消る時乃あると

雪の陰ををうをぬ雪乃流れをいひおせう

方ちうを人よはうをうを

紀乃河うゆ紀

四ひ屋をを方乃白山をうをも一表も雪をうをぬ表紀

おりひやる越のをうをやハをうをと人の表をさふ一表

もゆめよをゆめぬ表をうをを迄

影をうを

流人をうを

いををうを紀世をつをん蔵屋や伝見乃星のあまをまくゆを迄

ををうをや命をを乃をとれあるん人をを海のおれば

こゝゞ世ゝ、ちくよ屋ちんと也。英ゝ茶や、伊勢人きたれ也
はたぶらゝや伊勢人の茶よみきゝ世ば素よ海ぐふをそつ野の山
はゝちよつさて。本情乃ゝふゝよあゝ伊勢人ちゝむ。薗
原とゝぐゝらぐ。小初淑の山見也ぐゝぐ。はゝゝい恵山
伊勢勸女注生義と云造紙よ。いまあさ乃中指。長
井乃伊注。伊勢乃翁ちゝぐゝ云ゝ紀物語ありとのせ
らきあゝちゝさやうのゝもゝ。あゝゝ海をよる見ゝゝゝ
ゝやゝ。隆源と云僧ゝ。伊勢人ゝ云ゝといゝゝ。
あきまくゝもあゝゝ。あゝゝゝゝ。あきまくゝといゝ
ぐくと云ハかあまくゝもゝといひゝゝと云紙。いゝまくゝゝ。
といゝゝを云ゝらまくゝと云ゝよおゝゝ。紙ちくてハ。はゝ里の
わきんぢゝまをあゝ。ゝゝゝる也

紙屋ゝゝゝゝ山ゝ云ゝくハゝゝひゝゝ世紙ゝてゝ門
ゝぐゝハゝ三福乃山ゝ紙ゝゝゝ門ゝくゝあゝ。云ゝくハ
ゝゝゝひゝゝ野ゝ。宮ゝをゝゝゝゝゝ。三福の山を
ゝぐゝ。ゝゝゝ乃紙ゝどゝゝゝハはゝゝゝゝおゝゝ

ゝゝん法師

ゝゝ屋ゝ紙乃ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ世をゝゝ山と人ゝゝ
紙ゝゝハゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
をゝゝをゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ぬゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝハゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
月をゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

曉の雲よりあつる月のこゝろおちくまくさ迄。去程ゝ三の
ゑ。二月ゝ。あるゝ人。ゝ八谷乃屋ゝ。いゝゝ
乃ゝのおゝよゆくゝも。はゝ紙後古今集よいれへ
ゝゝを撰まいつる紙。為家に要ゝゝが筆むゝ
くなるゝとはゝぶやゝゝゝれゝいれざるゝを。為兼に要ゝ
集よはゝゝ紙入ゝゝゝゝゝゝゝ。白河院
宇治殿詠ゝよ歌あり。後奥つゝぶるにゝゝゝ
一日清涼殿と。京極大殿拳せゝれゝゝを。明日乃
墨ゝれあゝゝ。花洛小ゝあゝれゝ日ゝゝゝの歌ゝ
ゝゝと。清涼のゝゝ拳ゝれゝ。殿下御ゝ恨ゝゝ
よ。以歌物語。宇治ゝ歌の事よあゝゝ去撰ゝゝ
ゝ歌のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

詠ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ。人ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ。仏ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

あれよまゝり。ゝゝれいく世乃宮ゝれや。ゝゝ人の吉作ゝゝ
ゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

きてくをとせぬるをいとう
あらしへとうるあり きるはるあれとう家の女乃
琴ひきとる紙ゆてよとていまるあり とる

よしとの乃むもさと

とひ人のをとむべき宿とみるとよとびをとうる琴のをとる
ひとびとのをとをあべき宿と思とうるを。琴をとをとへある
琴のをとの乃をとるとを思ことものをとろこびうまへ丈調
をとの乃あまをを思乃とうるつまとを詞
をつををまうはるるをとなるの家をあるとうる
はをある

二条 源ひとうる乃長女

今をはをとをとをひてあり
はをとをとをとの乃新をとうはをとうる

雑をうとむ雲紙いとをひとをあるとうどをなるとう乃新も
古ひをれむ。雲もうはをれをあてをとを思。あるはをはいすき
むをとを思ひををむをとをあるをとを思

歌しるを

世中をいはまをうをしてををちをんゆをとをまるをとで宿と院
よををあるいはをくをををはをんをあるはをあゆをとをまる
西を宿とををむをとを思
お坂乃嵐の風を宿ををれとはを乃風をををを

風のよりあひ空なる蓮の分ハけ[illegible]も[illegible]に[illegible]ぬ[illegible]
風のうへまでこそ[illegible]をさ[illegible]ぬ[illegible]のごとくなる[illegible]ハ
おく[illegible]をたづねにゆくべきと也あらハあ[illegible]
ちりぢりの数もあらぬ我[illegible]ん妹[illegible]
回向をなりぬ[illegible]せ[illegible]
をあらハさに後撰よハ[illegible]をあらハに[illegible]
よハ[illegible]ひ琵琶[illegible]を[illegible]雅二位風の[illegible]
坂の[illegible]にうひてたちきて三曲[illegible]
あると也

家をとうまくるあるる

伊勢

あとと川あちもあらぬ我宿も世をうらハけ物うそ[illegible]

[illegible]河の渕[illegible]ぬ宿も[illegible]
[illegible]世のなりひるれで[illegible]
もなりれと也[illegible]
をとうまくるふりてな[illegible]
中務[illegible]の[illegible]
をもあさもむ[illegible]
[illegible]ぶ[illegible]
[illegible]
[illegible]
人のをとよ[illegible]

貫乃ともあ[illegible]

[illegible]
あ[illegible]

而乃意にまかせて也。はんべりてこれをみるに参ぐらせてう
ぢをもて、えのくもゐ、而とをもて。晋乃王質とをもて。彩を
あらはす山よりいでたれば。仙宮に入る。仙人の参をう
けたるを見て。中国にかへりて。ひとくるまちぬまで七世乃孫に
あたれりけんをを参をうちうるふよりておりひとそ
爲り

なとりもちとものうらにてうられて侍るつゐ
みちのく 陸乃国をを
ーくる

あるぶらーー袖の中にや入まるん我ものーあるにもちる
なるぶらーー人の袖の中よりいでまるあるる。我ものーあの
ちるにんのもとを也
寛平年中時よりをうーーー

なを行ものやふれをきたるべき行ものぶ行
乃ちそくよりもぐ地ぐ地ぐ地ぐ地ぐ字地ぐ字
行夏の合ゑ影ゑ節わとき

影くもと

風雨をもおそろしき波あつく山雲まのやまひとりこもん
ある人はうをむしり大和ぶちりくる人のむしあ
ゑぶの男人をこそこれ女親をちくなりて
家をまろくちりゆくあひさのおとこかうれ
くゑくゑ人をあひゆまくかうひぱかまやうゑ
はこちりゆきくりさわくねぐもつくあなくく
さもみそぐうちへいくぐとゑ男乃んのごとくあつて
いぐやりくれをあやゆとふひてぐゆもれまくこ

ことんをやみとうくぐひて月はおをゆろ
くろ雲ぐうちへいくまひくぜんざいのちふかく
拾て見くれをぶふくくまでおとくくさくく
はくおちはきてぱうくうをくみくねゑくねぐ見
をゆきくぞれくうゑ男ちへも雨くたちゑくく
とちんいひつくゑ
女まぐーくなくまーぐちひくち乃こ名のうくくを心
ひぐぱぐーゑてくぐをくかくひゆく山のおぐつ
なくぐ風の吹くくをのさぐーぐ紀雲まくやまぐひとり
こゑくくんとくちあくんあいれゆーぐちくくはくのき寺
乃ちくちくくきく筆をのこまり。頭服をおくうちくる
くくくむくーくちぬをくへのくまゆいくちぐ絵ねぐもこれを

あづさ弓といそんとうぐぶこそいひ侍
けれ。ものみといそんして。風あけぼのといふ序文に
がてうこうんのおきつ白波立田山いつもあさぼらけ
山ちかき田もと。伊勢乃海とあへり。ちはやぶる神
世にもきくためしなりけれど。ちはやぶる序に盗人のこと
あくがれいづる魂。宮ぢかんに伊勢を異とぞ。伊勢
だわらあくがれぬる衣乃あづまひとと同じ。
たづみそだゆつをあるかくれとなく
あつまの山は桜ゆつをあるかくれとなくたづみそだ
ちらんと也。くれなゐ衣乃あつまとこそ
きさらゆつをあるといそんとてありたづみそきは雅
人のみそだづと也。庭あるは東海をつまとてちらんを

ちらんたづみそだと也。乃ちらひ侍をこたとて
ぞ中の函へたづりくるぶるをおはわを新廉あるを立
田あるをあるとなり。なりもんてハ打延也。宮ぢかん
古今集乃序寸勅同ふりて十ぢえりつるを
一ちり
いにしへ人ハ時思へとそ濱ゆ者ゆく者を志ゆ歌をとむ
ものもれむ時ものへとそ海ちとり乃ゆ者も志ゆ
濱洲ゆ歌をとむ。むこごとくに人の者ゆ歌をのこと也
ぞ者乃歌ぞ者ゆ歌ぞ者ゆ歌ハ。史記云。蔡類記者跡作
文字とそ。ぞ文字をもちゆ者ゆ歌をとよめる也。
ちとそ沖の白洲ゆも濱乃ひろくもありあてあされ
物ちり。汐をつれを濱づとひ。ちくぶ。ひけりとへ。拾者ゆ

ゆく春もおしからぬ袖をとゞめむと侍りし

貞觀乃帝時第三集いはしるの法師詠

ちとせをかけのひろれも侍りくるまつりける

文屋あきやすの

かこそ月はなをなくるあるあるあるあるあれ

清和乃帝時第三集いはしるの法師詠

平城の帝時はつ尾志ぐれとなりぬるかぜ

乃わるとしてはつ雪ふるあるあるなり

ぬるゝ袖乃ちるあるあるといひつゝ

寛平の帝時ちるあるまつりまつりまつりまつりに

まつりまつり

大江千里

菅原のひとり雪ふるあるあるあるあるつるもん

あり田舎乃物あるまつりまつりまつりまつりまで

ゆとゝ多川はおりて秋あるひをのゝなりこれを鶴

喰九皐声聞天とあまをあまを池皐を澄池

新勅撰

かゝる衣下照姫乃つまをあるあるあるあるあるねを

志てるひめをあるあるひめ乃池を差をくれて

下照姫かゝあ姫あるあるあるあるあるあ

よ毛乃ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ